

# 事故等発生速報 (第1報)

1 工事(業務)名

2 発生場所

3 発注機関名

4 発生年月日 平成 年 月 日 午後 時 分頃発生

5 工期 自 平成 年 月 日 ~ 至 平成 年 月 日

6 請負金額 ¥ 円

7 請負業者名

8 事故種別

9 被災者の所属  
(起因者所属)

業者名:

10 被災者名  
(被災物件名)

性別

年齢

歳

11 被災者の症状  
(被災物件状況)

12 職種  
(工事関係者のみ)

13 事故の概要

(1) 事故の形態 (墜落、飛来・落下等、現段階で分かる範囲で結構です。)

.....  
.....  
.....

(2) 事故の発生状況

.....  
.....  
.....  
.....

報告日時	現場から工事担当課へ			
	月	日	時	分

事故発生後速やかに提出。

第1報提出後、事故の詳細が判明し、函面・写真等準備出来次第、第2報を速やかに提出。

人身事故の場合は、以降報告(第2報~)にて診断書を速やかに提出。

記入例

平成 年 月 日 現在

事故等発生速報 (第1報)

- 1 工事(業務)名 一般国道 線道路改良工事
- 2 発生場所
  - ・ 市 町(工事現場内)
  - ・ 市 町(工事現場外) 工事場所 市 町
- 3 発注機関名 地方局・振興局・土木事務所 課
- 4 発生年月日 平成 年 月 日 午前・午後 時 分 頃発生
- 5 工期 自 平成 年 月 日 ~ 至 平成 年 月 日
- 6 請負金額 ¥ , , 円 (事故発生時の請負金額)
- 7 請負業者名 ・ 特定建設工事共同企業体
- 8 事故種別
  - ・ 工事関係者事故(工事関係者が作業時に起こした事故。重機転倒のみなど死傷なしも含む。)
  - ・ 公衆災害事故(工事作業が起因して、第三者の人身・交通・物損事故など)
  - ・ もらい事故(工事関係者以外の第3者が起因して工事関係者が死傷した事故。)
- 9 被災者の所属 元請・下請〔次下請〕 業者名：(株) 建設  
(起因者所属)
- 10 被災者名 性別 男・女 年齢 歳  
(被災物件名)
- 11 被災者の症状 骨折・ 裂傷、 電柱破損など(入院 ヶ月予定・全治 ヶ月など)  
(被災物件状況)
- 12 職種 現場代理人・作業員・運転手など  
(工事関係者のみ)
- 13 事故の概要

分ければ記入下さい。

(1) 事故の形態(墜落、飛来・落下等、現段階で分かる範囲で結構です。)

・道路法面、足場等からの墜落、転落 ・吊り荷、資材等の飛来、落下 ・土砂崩壊

・建設機械の転倒、接触、衝突、下敷 ・資材等への躓き、滑りによる転倒 ・交通事故 など

(2) 事故の発生状況

事故発生状況を分かる範囲で記入して下さい。

報告日時	現場から工事担当課へ			
	月	日	時	分

事故発生後速やかに提出。  
 第1報提出後、事故の詳細が判明し、図面・写真等準備出来次第、第2報を速やかに提出。  
 人身事故の場合は、以降報告(第2報~)にて診断書を速やかに提出。

# 事故等発生報告書(第 報)

1 工事(業務)名

2 発生場所

3 発注機関名

4 発生年月日 平成 年 月 日 午後 時 分頃発生

5 請負業者名

6 事故種別

7 被災者の所属 (起因者所属) 業者名:

8 被災者名 (被災物件名) 性別 年齢 歳

9 被災者の症状 (被災物件状況)

10 職種 (工事関係者のみ)

11 事故の概要

(1) 事故の発生状況(第1報後に詳しく判明した発生状況を記入下さい。)

.....

(2) 事故の発生要因(事故原因を発注者・請負業者で協議検討し記入下さい。)

.....

12 事故に関する関係資料の確認等

(1) 設計図書の記載内容及び積算方法等(積算、特記仕様書、現場説明事項、指示・協議事項等)

.....

(2) 施工計画等の内容(施工計画書と実施方法、施工体系図等)

.....

( 3 ) 関係機関との手続き ( 申請・許可等の提出・回答等の確認 )

.....  
.....  
.....  
.....

13 所轄労働基準監督署の対応・回答等 ( 必ず連絡し、回答をもらい記入して下さい。 )

.....  
.....  
.....

14 所轄警察署の対応・回答等 ( 必ず連絡し、回答をもらい記入して下さい。 )

.....  
.....  
.....

15 事故後の対応等 ( 事故後の請負業者の対応及び今後の事故防止対策内容を記入して下さい。 )

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

16 事故関連図面等 ( 位置図・詳細図・写真・診断書・事故後の処置図面等 )

17 その他 ( 本報告時点での被災者状況、所感など )

.....  
.....  
.....  
.....  
.....  
.....

第 2 報は、第 1 報提出後、詳細が分かり次第速やかに提出下さい。  
第 3 報以降は、第 2 報 ( 前報 ) の報告内容を加除修正して提出下さい。  
人身事故の場合は、診断書を速やかに提出下さい。  
最終報告は、被災者が職場復帰 ( 作業員 ) および完治 ( 第 3 者 ) した時点とします。  
尚、被災者の自宅療養や退院・通院状況などの中間報告は、必要ありません。

事故等発生報告書(第 報) 第2報以降

- 1 工事(業務)名 一般国道 線道路改良工事
- 2 発生場所
  - ・ 市 町(工事現場内)
  - ・ 市 町(工事現場外) 工事場所 市 町
- 3 発注機関名 地方局・振興局・土木事務所 課
- 4 発生年月日 平成 年 月 日 午前・午後 時 分頃発生
- 5 請負業者名 ・ 特定建設工事共同企業体
- 6 事故種別
  - ・ 工事関係者事故(工事関係者が作業時に起こした事故。重機転倒のみなど死傷なしも含む。)
  - ・ 公衆災害事故(工事作業が起因して、第三者の人身・交通・物損事故など)
  - ・ もらい事故(工事関係者以外の第3者が起因して工事関係者が死傷した事故。)
- 7 被災者の所属 (起因者所属) 元請・下請〔次下請〕 業者名：(株) 建設
- 8 被災者名 (被災物件名) 性別 男・女 年齢 歳
- 9 被災者の症状 (被災物件状況) 骨折・ 裂傷、 電柱破損など(入院 ヶ月予定・全治 ヶ月など) 診断書添付
- 10 職種 (工事関係者のみ) 現場代理人・作業員・運転手など 分かれれば記入下さい。

11 事故の概要

(1) 事故の発生状況(第1報後に詳しく判明した事項等を記入下さい。)

第1報の記載内容をより詳細に分かり易く記入して下さい。

.....

.....

.....

(2) 事故の発生要因(事故原因を発注者・請負業者で協議検討し記入下さい。)

事故発生要因について、人的要因、物的要因又は環境的要因等がある中で、何が関係した事故なのかを発注者と協議検討し記入して下さい。

(別紙：事故発生要因一覧表(参考)参照)

.....

.....

12 事故に関する関係資料の確認等

(1) 設計図書の記載内容及び積算方法等(積算、特記仕様書、現場説明事項、指示・協議事項等)

事故に関連する項目が、積算に反映、特記仕様書に記載、あるいは工事打合せ簿にて指示・協議されてあれば記入して下さい。

.....

.....

(2) 施工計画等の内容(施工計画書と実施方法、施工体系図等)

事故に関連する項目が、施工計画書に記載されてあれば記入して下さい。(写し添付)

.....

.....

(3) 関係機関との手続き(申請・許可等の提出・回答等の確認)

事故に関連する届出を、所轄労働基準監督署、所轄警察署および所轄管理者等に提出してあれば記入して下さい。

例えば・・・掘削の高さ又は深さが1.0m以上の地山の掘削があれば、「建設工事計画書」を所轄労働基準監督署へ届出(安衛法第88条第4項)。他に「道路使用許可申請書」を所轄警察署へ提出など。

13 所轄労働基準監督署の対応・回答等 (必ず連絡し、回答をもらい記入して下さい。)

所轄労働基準監督署へ事故発生の連絡をした時の対応、指示および回答等を記入して下さい。  
事故の形態や負傷の有る無しに係わらず、必ず連絡して下さい。

14 所轄警察署の対応・回答等 (必ず連絡し、回答をもらい記入して下さい。)

所轄警察署へ事故発生の連絡をした時の対応、指示および回答等を記入して下さい。  
事故の形態や負傷の有る無しに係わらず、必ず連絡して下さい。

15 事故後の対応等(事故後の請負業者の対応及び今後の事故防止対策内容を記入して下さい。)

事故後、請負業者の対応および今後の事故防止対策を行ったか、または行うかを記入して下さい。

16 事故関連図面等(位置図・詳細図・写真・診断書・事故後の処置図面等)

事故発生位置図・詳細図・写真・診断書等その他事故に関する書類

また、事故後の処置図面等の提出

17 その他(本報告時点での被災者状況、所感など)

・被災者の被災後の状況(入院(ヶ月予定)、自宅療養中、職場復帰など)を分かる範囲で記入して下さい。

・被災者の職場復帰については、「月日 被災者職場復帰(休業 日間)」と記入。

・今回の事故に際して所感などを記入して下さい。

第2報は、第1報提出後、詳細が分かり次第速やかに提出下さい。

第3報以降は、第2報(前報)の報告内容に追加表示して提出下さい。

人身事故の場合は、診断書を速やかに提出下さい。

最終報告は、被災者が職場復帰(作業員)および完治(第3者)した時点とします。

尚、被災者の自宅療養や退院・通院状況などの中間報告は、必要ありません。

# 事故発生要因一覧表 (参考)

## 人的要因

共通要因	危険だと思わなかった。
	危険だと思っていたが、大丈夫だろうと思って危険な行動をとった。
	危険だと思っていたが、誤った知識による(危険な)行動をとった。
	危険だと思っていたが、無意識(うっかり)による行動をとった。

規律の無視行為・危険な行為	機械・装置等の誤操作、指定外使用など取り扱いが悪かった。
	無資格で作業した。
	作業標準(作業手順、指示・命令、準備段取り点検など)を守らなかった。
	安全装置(防護物・保護具など)の未使用。
	欠陥のある機械・装置、工具、用具等を使用した。
	工具、用具、材料等を不安全な場所に置いた。

肉体的精神的要因	油断、軽視した。
	放心、考え事をしていた。
	気持ちがあせっていた。
	作業の勘違いや危険を知らなかった。
	作業に熱中していた。
	脇見・よそ見をしていた。
	身体の調子が悪かった。

共同作業上の行為	連絡・合図が不明瞭または無かった。
	合図、信号を統一していなかった。
	相手の動作を確認しなかった。
	合図を勘違いした。

不安全な位置姿勢	危険有害、不安全な場所に立ち入った。
	動いている機械、装置等に接近または触れた。
	つり荷に触れ、下に入りまたは近づいた。
	確認なしに崩れやすい物に寄りまたは触れた。
	無理な姿勢で作業した。
	服装、保護具の選択、着用方法が不適であった。

## 物的要因

物自体の欠陥	設計構造が悪かった。
	機械・器具・資材に欠陥があった。
	安全度が不足だった。

防護設備・保護具の欠陥	危険防止設備が欠陥・未設置だった。
	開口部覆い・通路・手摺・昇降設備等の欠陥・未設置があった。

防護設備・保護具の欠陥	作業床(ステージ・構台等)防止設備に欠陥・未設置があった。
	飛来落下防護が欠陥・未設置だった。
	投下設備の設置が欠陥・未設置だった。
	防火設備に欠陥・不備があった。
	安全標識がなかった。
	保護具が不適・不足・不良であった。

作業周辺の欠陥	不安全に物が置いてあった。
	作業場が狭かった。
	作業場の整理が悪かった。

作業環境の欠陥	振動・騒音等、作業環境が悪かった。
	ガスが存在し、酸欠状態で換気が悪かった。
	交通量が多かった。
	天候条件が悪かった(雨・風・雪等)
地形条件が悪く、見通しが悪かった。	

## 環境的要因

教育指導の欠陥	作業方法を教えていなかった。
	危険な有害作業の教育が不十分だった。
	基礎心得の教育・訓練が不十分だった。
	理解度の確認が不十分だった。
	教育訓練体制が不備であった。

施工計画の欠陥	施工計画・作業標準・施工体制台帳等に不備があった。
	作業の安全指示が不適切だった。
	作業員の配置に能力・人員数に無理があった。
	指揮者、誘導員をつけていなかった。
	各種安全活動が不備だった。
	適切な技術者の配置に不備があった。
無資格者にやらせた。	
事前調査・資料調査が不十分だった。	

安全管理体制の欠陥	現場施工条件変化に不適切に対応した。
	下請け指導が不適切だった。
	緊急通報体制が未確立・不備であった。
	安全施設・安全標識の点検不足だった。
	隣接工区との連携に不備があった。

安全管理体制の欠陥	周辺地域への周知に不備があった。
	資格者のチェックをしていなかった。
	気象条件の収集と対応をしなかった。
	安全管理体制(日常巡視等)に欠陥があった。
	工事現場出入口付近での交通事故防止対策をしなかった。
	作業中止の基準を定めていなかった。
健康診断を実施していなかった。	
危険物の管理に欠陥・不備があった。	

工程管理	現場内連絡調整が不備だった。
	工程に無理があった。作業の急ぎ。